

当院にて骨格性上顎前突で手術による外科的矯正治療を受けられた患者様へ

この度、東京歯科大学歯科矯正学講座において下記の内容にて研究を行うこととなりました。本書面をご一読いただき、本研究の趣旨、内容をご理解いただけましたら、是非ご協力いただきますようお願い申し上げます。

1. 研究課題名

下顎後退を伴う（下あごが後ろに位置していることによる）骨格性上顎前突症患者における外科的矯正治療後の顎関節（あごの関節）と咬筋（あごの筋肉）の変化の検討

2. 研究目的

下あごが後ろに下がっているタイプの骨格性上顎前突は、顎の位置の異常や噛みあわせの不良に伴い、あごの関節部に様々な異常所見を認めることが多くあります。これらには下あごを前に出す顎矯正手術を含んだ外科的矯正治療をおこなうのが一般的な治療法です。

これまで上記の治療前後において、あごの関節の形の変化を報告した研究は散見されていますが、その周囲の筋肉の変化との関連を調査した研究はほとんどありません。外科的矯正治療後の咀嚼筋というあごの筋肉を中心とするあごの骨周囲の筋肉は、手術によるあごの位置の変化に徐々に適応していくことが知られていますが、これがあごの関節にも影響を与えていることが推測されます。そしてこれは治療後の安定した経過にも大きく関わると考えられます。

よって本研究は、手術によるあごの位置変化があごの関節や周囲の筋肉にどのような変化を与えているのかを調査することを目的としています。

3. 研究方法

本研究の調査の対象となるのは、2006年1月1日から2019年12月31日の間に東京歯科大学千葉歯科医療センターおよび同大学水道橋病院にて下顎後退を伴う骨格性上顎前突と診断の下、外科的矯正治療を受けられ、治療後2年以上経過している患者様です。治療に用いたレントゲン写真を分析して、上下のあごの骨の位置の計測、あごの関節の形の計測などを行います。またCTデータを使用してあごの骨周囲の筋肉の体積を計測します。

これらの治療前、治療中、治療後の計測結果からそれぞれの変化とあごの関節の変化と周囲筋肉の変化の関連性を調査し、影響を考察します。

4. 研究期間

本研究の研究期間は、東京歯科大学倫理審査委員会が本研究を承認した2020年12月11日より、2023年3月31日を予定しています。

5. 個人情報等の取り扱い

本研究に使用させていただく資料は患者様の治療に使用されたものです。その中の患者様の病院カルテ番号や氏名を目隠しさせていただき、資料の匿名化を行います。匿名化されたものは対応表を作り連結化いたしますが、その対応表については研究責任者である立木が講座内の鍵のかかる棚に保管し研究終了から5年間保管いたします。その後、同責任者が適切に廃棄いたします。

6. 研究に関する情報公開の方法

本研究の成果は、日本顎変形症学会学術大会、日本矯正歯科学会学術大会にて報告する予定です。その後、Orthodontic waves（日本矯正歯科学会学会誌 英文）への論文投稿を予定しております。

7. 研究協力者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益

本研究にご協力いただいたことにより、治療上に生じる新たなリスクまたは利益等はございません。

8. 倫理審査委員会の承認

本研究は、東京歯科大学倫理審査委員会の審査を経て、学長の承認を得ております。

9. 研究協力の撤回について

ご自分のデータを使用されたくない場合は、下記担当者までお申し出ください。その際は、不同意書をお渡しいたしますので、必要事項をご記入の上ご提出をお願い致します。それによって患者様が不利益な扱いを受けることはございません。

10. 費用等に関すること

本研究にご協力いただくことによる新たな費用負担または謝金はございません。また他施設他機関との利益相反の関係はございません。

本研究に関するご質問やご意見がある場合は、下記へご連絡下さい。

お問い合わせ先

東京歯科大学 歯科矯正学講座

研究責任者（情報管理責任者） 立木 千恵

連絡先 東京都千代田区神田三崎町2-9-18 東京歯科大学水道橋病院 矯正歯科

TEL:03-5275-1724